

インフルエンザ (3)

2002.10.15発行

毎年冬になると流行するインフルエンザ。今回はその予防・治療などについてお話しします。

院長 大崎緑男

1. “インフルエンザ”とは

“インフルエンザ”は“かぜ症候群”の1つで、インフルエンザウイルスによって引き起こされるものをいいます。インフルエンザウイルスは大きく分けてA型・B型・C型の3種類あります。このうち流行を起こし問題となるのはA型とB型です。“インフルエンザ”と“普通のかぜ”の違いを表にまとめました。インフルエンザに特徴的なことは、1) 感染力が強く、集団感染が起こりやすい、2) 39 以上の高熱や筋肉痛など全身症状が強い、3) 症状の進行も早く重症化しやすいので高齢者や乳幼児など抵抗力が弱い人は死亡する危険性がある、ということです。

“インフルエンザ”と“普通のかぜ”の違い

項目	インフルエンザ	普通のかぜ
発症	急激に発症	ゆるやかに発症
感染力	感染力が強く、ウイルスが急激に増加	感染力は弱く、ウイルスは徐々に増加
主な症状	発熱、全身痛	鼻水、鼻づまり、のどの痛みなど
発熱	39 ~ 40	ないか37 台
関節痛、筋肉痛など	強い	弱い
鼻やのどの炎症	全身症状の後から出現する	最初から出現
病原ウイルス	インフルエンザウイルス	ライノウイルスなど

2. “インフルエンザ”の合併症

インフルエンザの重症化の原因である合併症には以下のような病気があります。

肺炎・気管支炎：インフルエンザウイルス自体による肺炎・気管支炎と細菌の二次感染によるものがあります。前者は乳幼児に多く、後者は高齢者に多いとされています。

脳炎・脳症：小児（特に乳幼児）において、高熱に続いて重症の意識障害をもって発病する病気です。原因は明らかになっていませんが、インフルエンザウイルスの感染が引き金となっていることは明らかです。また、**ボルタレン^R**や**ポンタール^R**といった解熱剤との関連性も指摘されています。水分をとったあとすぐ吐いてしまい元気がない、意識がはっきりせずうとうととしている、けいれんを起こすなどの症状が見られたらすぐに医療機関を受診してください。

その他の合併症：乳幼児では**中耳炎**、アスピリンとの関連性が指摘されている**ライ症候群**(脳炎の一種)、成人では**心筋炎**などがあります。

3. 予防接種

予防の基本は流行前に予防接種を受けることです。インフルエンザワクチンの予防効果は 100%ではありませんが（60～80%）、ワクチンを接種した方は重症化することは少ないです。特に高齢者、乳幼児や基礎疾患を有する方（呼吸器疾患、心疾患、糖尿病など）は、インフルエンザの重症化を防ぐためワクチンによる予防が望まれます。なお、ワクチンの製造において鶏卵を使用しているので、卵アレルギーのある方は、接種をさけるか、注意して接種する必要があります。

【当クリニックでの接種方法】

65歳以上：1回のみ接種。

64歳以下：1～4週間の間隔をあけて2回接種する。

13歳以上64歳以下の方でも、前年確実にインフルエンザに罹患していたり、前年インフルエンザの予防接種を受けている方は1回接種でも十分な免疫を得られると考えられます。但しこの点に関して国内で十分な調査研究がなされておりませんので、確実にと思われる方は2回接種をお勧めします。また、12歳以下の方は2回接種が必要です。

* 12月中旬までに接種されることをお勧めします。

なお、魚津市在住の65歳以上の方もしくは60歳以上の心臓・腎臓・呼吸機能に障害を有する方（身体障害者1級程度）は、一部公費負担となり、1050円の自己負担にて予防接種が受けられます。平成14年度は10月21日より12月21日までです。

4. 当クリニックにおける診断と治療

確定診断にはインフルエンザ抗原迅速検査を用いています。これは、鼻粘膜を綿棒でこすり、その中のインフルエンザウイルスの有無を調べる検査です。15分程度で結果が判明し、80%の診断率があります。

治療には主としてA型B型双方に有効な抗ウイルス剤（ウイルス増殖抑制剤）タミフル[®]を用いています。多くの場合、使用後高熱や主要症状が急速に軽快します。但し、症状出現より48時間以内に使用開始しなければ効果はありません。副作用の少ない薬で、今年より1歳以上の小児でも使用可能となりました。

5. 日常生活で気をつけること

予防には

- ・ 予防接種を受ける。
- ・ 十分な栄養と休養をとる（体力が低下しているとインフルエンザに感染しやすくなります）。
- ・ 人ごみをさけ、外出時にはマスクを着用する。
- ・ 外出後は手洗い、うがい、洗顔をする（ウイルスは手や顔、衣類等にも付着しています）。
- ・ 室内の湿度を保つ（乾燥した状態ではウイルスが活発に活動します）。

インフルエンザにかかってしまったら

まず、早めに医療機関を受診することです。時間が経ってからでは十分な薬の効果が望めないことがあります（治療の項目参照）。また、乳幼児では解熱剤により脳炎・脳症やライ症候群を併発する危険性があるので、必ず医師の指示のもとに薬を服用するようにして下さい。



ご不明な点は、お気軽にご相談ください。